多摩の未来の地勢図　Cleaving Art Meeting

あわいを歩く
―途中の地図

連続ワークショップ「多摩の未来の地勢図を共に描く―あわいを歩く」の記録 2022―2023

特定非営利活動法人アートフル・アクション

〈多摩の未来の地勢図を共に描く―あわいを歩く〉

日々生活していると、自分自身がどこにいるのかわからなくなる時があります。戦争の勃発、災害の発生、様々な不条理、暮らや困難が溢れる一方で、一見、平穏な生活が営まれています。重層的に関係し合う様々な問題や解決の見えない状況の続く中、私たちはそれに何らの形で加担し、大きな矛盾を抱えながら生きています。自身の生きている日々がどのように成り立っているのか、その中でこの現実とどのように関係を作っていくことができるのか、様々な土地を、そしてあらゆる歩きながら、この資えのない時代の状況を共に考えます。

不明瞭な、解決の見えない状況のなか、「あわい」について、あるいは「あわいの歩み方」を考えることは、これからの私たちの行方を考えるためにとても大切な営みです。特に、未来を見据えつつ、主に多摩／東京に住まう私たちの今日の暮らしを成り立たせて来た歴史を振り返る時、東京において東京を担うだけでは、その資格が揺らぐのではないでしょうか。歴史的に、東京は東京の暮らし様々な地域、場所から、資源やエネルギー供給を得、人々の知恵や労力によって成り立ってきました。東京を東京たらしめてきたこれらの経緯を、それらを送り出した地の風景、人々、作られてきたもの、損なわれてきたもの、複合災害（※）の構造について知りながら、そもう側からもう一度東京を見ること、これからの私たちの暮らしについて考えています。

※複合災害：ここでは特定する「複合災害」を想定し、過去から現代に続く様々な出来事、事故、災害、（自然環境や社会経済状況が交じり合った）が原因となり、単体のみで起こった事象のことを指します。

■あわいという言葉

「あわい」という言葉には、「間」と「深い・い」という二つの漢字が当てはまります。「間」はものとものとのあいだや境界線、相互の関係、または流れの速さから言葉を将ます。「深い」は形やなどが深いのいろいろ、さまざまのあるさまをあらわします。今回、私たちが歩く「あわい」「あわい」はこれらの漢字の意味が混ざり合ったようなことを指します。あわいのさまは向き合う対象（風景、時代、場所、自然、動物、言葉、人、その他様々など）との相互関係によって変化し続けます。そのあわいのあり方を捉えることで、社会や対象への身体の眼ざしがどういう変化していくのかはわからません。

■多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting とは
多摩地域を舞台に、地域の文化的、歴史的特性をふまえつつさまざまな人々が協働、連携するネットワークの基盤づくりを進めます。
多摩地域は、東京23区に比べて広大な面積を有し、多摩川や奥多摩といった地理的な特徴、都心から放射線状に開発型住宅地が郊外へ続くように付随した宅地開発など多様な特性を有しています。
特に高度成長期前後頃に大規模な人口流入があり、多摩ニュータウンを はじめとして郊外型開発が進んでの過剰開発を支えました。一方でその動きは多摩地域が持っていた貴重な土壌や豊かな風景、豊富な人口増の高い比重の均質、いわば都心へ通勤する人たちを支える居住地としての性格を強めました。
この歪みは、戦前から戦後、今に至るまで。日本社会の現代史を体現するような側面も有しています。特に、地方からの大規模な人口流入、エネルギーや食資源の供給は、東京を始め都心圏に対応とおります。東北や甲信越、ひいては遠くは本州の果てに位置、沖縄の方々とも繋がります。今日、高度成長期に都心から郊外へ拡散した人口、あるいは地方からの流入した人たちは核家族化一高齢化、街は原期間で大変化の中にあります。
本事業では、プロジェクトの実施を通じ、多摩全日本の現代社会を考えるための一つの象徴として捉え、そこにある諸課題が照らし出す事象を通じ、私たち自身の暮らしを見つめ直すことを試みます。
https://cleavingartmeeting.com/

多摩美術大学の「東京アートポイント計画」として実施しています。東京アートポイント計画は、社会に対して新たな価値観や創造的な活動を生み出すためのさまざまな「アートポイント」をつくるために、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京が、地域社会を担うNPOとともに展開している事業です。実験的なアートプロジェクトを通じて、個人が豊かに生きていくための環境づくりや創造的な活動のさまざまな仕組み づくりに取り組んでいます。

多摩の未来の地勢図
Cleaving Art Meeting
あ づ い を 歩 く ― 途 中 の 地 図
連続ワークショップ
「多摩の未来の地勢図を共に描く―あわいを歩く」
の記録 2022-2023

発行　2023年（令和5年）3月20日
制作　特定非営利活動法人アートフル・アクション
スタッフ　岩井優佳 藤本広子 森山晴香 井筒貴子
発行者　公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京
東京都千代田区丸の内1-8-1
丸の内ビルディング15階
電話：03-6256-8435
FAX：03-6256-8429
www.arts-council-tokyo.jp
図書設計　松田剛
印刷　graphic

●本書は無断転写、複製、転載を禁じます。
©2023 npo:artfull.action

●本書に関するお問い合わせ先
特定非営利活動法人アートフル・アクション
東京都小金井市本町6-5-1ジャネット小金井3F
電話：050-5627-9531
mail:@artfullaction.net
http://artfullaction.net/

この地図を開かれる方へ

◉2022年9月から2023年3月にかけて、連続ワークショップ「多摩の未来の地勢図を共に描く―あわいを歩く」が行われました。様々な場所で活動するゲストや、様々な土地に暮らす人の参加を得ながら、土地を訪ね、そこで出会った人や地の照り返しを受け、問われると、内省することをくり返しながら、少しづつ歩いてきました。

◉この地図には、この期間に行われたワークの概要と、一つ一つのワークやゲストにつながる文章が配置されています。地理、移動のみちすじ、個々の時間、過ごした時代、それらの流れがいり混じった地図です。様々な時代や土地、時、人に思いを馳せながら、この地図を追ってみてください。

〈講師プロフィール〉

◉**花崎攝**：シアターグラフィティ主宰、野口体操講師、ロンドン大学ゴールドスミス校芸術学修士、専門は、演劇を人々の生活の中で活かし、演劇の可能性を広げる心理演劇。主な仕事に、公募で集まった人の経験を聞き合って演劇の形を変える「地域の物語」シリーズ（世田谷パブリックシアター）、給見性米収麻恵さと市民と共演した「水俣は生きて」（水俣病公式確認50年事業）、横浜の高齢者に精神科アイデアにつながる人たちと、ごみを音にこを通じた表現と交流を目指すことはうどがみプロジェクト」など。表現哲美術大学、日本大学芸術学部、立教大学非常勤講師。

◉**岩井優**：1975年生まれ。東京都立大学英語専攻英語学士取得課程修了。国内外の地域に宅身的な手法で活動に取り組み、クレジンジ（洗浄・消毒）化を主題に、映像、インスタレーション、パフォーマンスを展開している。主な展覧会に「見るは触れる 目本の新進作家Vol.19」（東京都写真美術館、2022年）「コロマットリエンナーレ2020 AFTERGLOW ―光の盛片をつかまえる」（横浜美術館、2020年）、個展「公園計画83 岩井優 ハウワークリーアップ/ザ・ミュージアム」（田中由美術館、2021-22年）、「コンテポラーネオアートペ」（Italian Sensoryは Contemporary Art、2020年）など。

◉**曽我茶子**：東京都生まれ。イギリス在住。ロンドン芸術大学チェルシーカレッジ、ロンドン大学スレードスクール卒業。オックスフォード大学にて博士課程修了。キングストン大学、ロンドン芸術大学講師。「アート&エコロジー」の興味を軸に、フィールドワークから得た知識や、出会う人々との記憶を通りながら制作を行い、それらを、映像、テキスト、インスタレーション作品として発表している。アートの現点から社会環境から感じ通和感をどう理解し「問う」ことが可能であるかを探求しながら活動を続ける。

◉**藤城茂**：水戸市出身。大学卒文化人類学を学んだのち、東京でデザイン業に就く。2010年いわき市に移住したことをきっかけに、土や植物、木々と人間とに耐まれた記憶などをテーマとした作品制作を始める。2011年の東日本大震災以降、被ば書き喝ご巧活動などもしている。主な展示として、「VOYAGER」（ミハエル・ヨエンナーレ[2016]、はじまりの美術館[2018]）、「鼓女の町、後の海辺」（横浜赤煉瓦、2020年）、個展「公園計画83 岩井優 ハウワークリーアップ/ザ・ミュージアム」（田中由美術館、2021-22年）、「地中の対話、百億の波の果て」（ふるさとアーツキャンプ[2020]）等。

◉**なかのまさき**：東京水産大学（現・東京海洋大学）大学院博士前期課程修了。1995年より北欧フィンランド、ノルウェーを語れ、北極圏サーミランドの先住民族サーミのサケマス漁やトナカイ飼育の人々、都市に住むロマ（ジプシー）の人びとなどを撮影している。

◉**曾我茶子**：昭和41年（1966年）生まれ　在英地区出身。46年間を熱帯に育ちし。70歳からは天上とにに有機農業を手掛けてまた。農作業の傍ら、20歳にたった一人で、海を渡り英国に留学。ロンドン芸術大学（旧ロンドン大学）ゴールドスミス校を卒業。博士号を取得。現在、ロンドンを拠点に、「アート&エコロジー」の視点を軸に、フィールドワークから得た知識や、出会う人々との記憶を通りながら制作を行い、それらを、映像、テキスト、インスタレーション作品として発表している。アートの現点から社会環境から感じ通和感をどう理解し「問う」ことが可能であるかを探求しながら活動を続ける。

◉**藤城茂**：水戸市出身。大学卒文化人類学を学んだのち、東京でデザイン業に就く。2010年いわき市に移住したことをきっかけに、土や植物、木々と人間とに耐まれた記憶などをテーマとした作品制作を始める。2011年の東日本大震災以降、被ば書き喝ご巧活動などもしている。主な展示として、「VOYAGER」（ミハエル・ヨエンナーレ[2016]、はじまりの美術館[2018]）、「鼓女の町、後の海辺」（横浜赤煉瓦[2017]）、「地中の対話、百億の波の果て」（ふるさとアーツキャンプ[2020]）等。

◉**木村紀夫**：team 沙耳（ゆうじょ）プロジェクト代表・大熊未来塾塾長。1965年福島県大熊町の浪江町に生まれ。自転車で放浪生活をしつつ山岳民族の生活に憧れた20代を経て、修羅に、結婚、娘2人を授かる。ふ歳で東日本大震災に見舞され、津波で全を喪、次女を失い、原発事故で故郷を追われる。3次女出産以降の一部発見までに5年ヶ月を要する。捜索の傍ら、避難先の長野県白馬に定住移住。ボランティアを通じて、震災の伝承ならびにそれらに関する情報収集を行なう。2011年東日本大震災以降、被ば書き喝ご巧活動などもしている。主な展示として、「VOYAGER」（ミハエル・ヨエンナーレ[2016]、はじまりの美術館[2018]）、「鼓女の町、後の海辺」（横浜赤煉瓦[2017]）、「地中の対話、百億の波の果て」（ふるさとアーツキャンプ[2020]）等。

◉**なかのまさき**：東京水産大学（現・東京海洋大学）大学院博士前期課程修了。1995年より北欧フィンランド、ノルウェーを語れ、北極圏サーミランドの先住民族サーミのサケマス漁やトナカイ飼育の人々、都市に住むロマ（ジプシー）の人びとなどを撮影している。

◉**曾我茶子**：昭和41年（1966年）生まれ　在英地区出身。46年間を熱帯に育ちし。70歳からは天上とにに有機農業を手掛けてまた。農作業の傍ら、20歳にたった一人で、海を渡り英国に留学。ロンドン芸術大学（旧ロンドン大学）ゴールドスミス校を卒業。博士号を取得。現在、ロンドンを拠点に、「アート&エコロジー」の視点を軸に、フィールドワークから得た知識や、出会う人々との記憶を通りながら制作を行い、それらを、映像、テキスト、インスタレーション作品として発表している。アートの現点から社会環境から感じ通和感をどう理解し「問う」ことが可能であるかを探求しながら活動を続ける。

◉**木村紀夫**：team 沙耳（ゆうじょ）プロジェクト代表・大熊未来塾塾長。1965年福島県大熊町の浪江町に生まれ。自転車で放浪生活をしつつ山岳民族の生活に憧れた20代を経て、修羅に、結婚、娘2人を授かる。ふ歳で東日本大震災に見舞され、津波で全を喪、次女を失い、原発事故で故郷を追われる。3次女出産以降の一部発見までに5年ヶ月を要する。捜索の傍ら、避難先の長野県白馬に定住移住。ボランティアを通じて、震災の伝承ならびにそれらに関する情報収集を行なう。2011年東日本大震災以降、被ば書き喝ご巧活動などもしている。主な展示として、「VOYAGER」（ミハエル・ヨエンナーレ[2016]、はじまりの美術館[2018]）、「鼓女の町、後の海辺」（横浜赤煉瓦[2017]）、「地中の対話、百億の波の果て」（ふるさとアーツキャンプ[2020]）等。

◉**なかのまさき**：東京水産大学（現・東京海洋大学）大学院博士前期課程修了。1995年より北欧フィンランド、ノルウェーを語れ、北極圏サーミランドの先住民族サーミのサケマス漁やトナカイ飼育の人々、都市に住むロマ（ジプシー）の人びとなどを撮影している。

◉**曾我茶子**：昭和41年（1966年）生まれ　在英地区出身。46年間を熱帯に育ちし。70歳からは天上とにに有機農業を手掛けてまた。農作業の傍ら、20歳にたった一人で、海を渡り英国に留学。ロンドン芸術大学（旧ロンドン大学）ゴールドスミス校を卒業。博士号を取得。現在、ロンドンを拠点に、「アート&エコロジー」の視点を軸に、フィールドワークから得た知識や、出会う人々との記憶を通りながら制作を行い、それらを、映像、テキスト、インスタレーション作品として発表している。アートの現点から社会環境から感じ通和感をどう理解し「問う」ことが可能であるかを探求しながら活動を続ける。

◉**木村紀夫**：team 沙耳（ゆうじょ）プロジェクト代表・大熊未来塾塾長。1965年福島県大熊町の浪江町に生まれ。自転車で放浪生活をしつつ山岳民族の生活に憧れた20代を経て、修羅に、結婚、娘2人を授かる。ふ歳で東日本大震災に見舞され、津波で全を喪、次女を失い、原発事故で故郷を追われる。3次女出産以降の一部発見までに5年ヶ月を要する。捜索の傍ら、避難先の長野県白馬に定住移住。ボランティアを通じて、震災の伝承ならびにそれらに関する情報収集を行なう。2011年東日本大震災以降、被ば書き喝ご巧活動などもしている。主な展示として、「VOYAGER」（ミハエル・ヨエンナーレ[2016]、はじまりの美術館[2018]）、「鼓女の町、後の海辺」（横浜赤煉瓦[2017]）、「地中の対話、百億の波の果て」（ふるさとアーツキャンプ[2020]）等。

多摩の未来の地勢図　Cleaving Art Meeting

あわいを歩く
―途中の地図

連続ワークショップ「多摩の未来の地勢図を共に描く
―あわいを歩く」の記録 2022―2023

特定非営利活動法人アートフル・アクション

この地図を開かれる方へ

◉2022年9月から2023年3月にかけて、連続ワークショップ「多摩の未来の地勢図を共に描く―あわいを歩く」が行われました。様々な場所で活動するゲストや、様々な土地に暮らす人の参加を得ながら、土地を訪ね、そこで出会った人や地の照り返しを受け、問われること、内省することをくり返しながら、少しづつ歩いてきました。

◉この地図は「あわいを歩く」の１つの歩みの過程を可視化し、結果として俯瞰したものです。事務局スタッフ（森山晴香）がこの期間描き続けた「板書」により構成されています。板書は、ワークショップ当日の議論やフィールドワークで話ねた先での対話を聴きながら、出来事の位置、出来事と出来事の関係、ひとつの出来事から導かれる次の出来事の動きを記述した記録です。

過程の断片（本紙はさみこんのカード群）

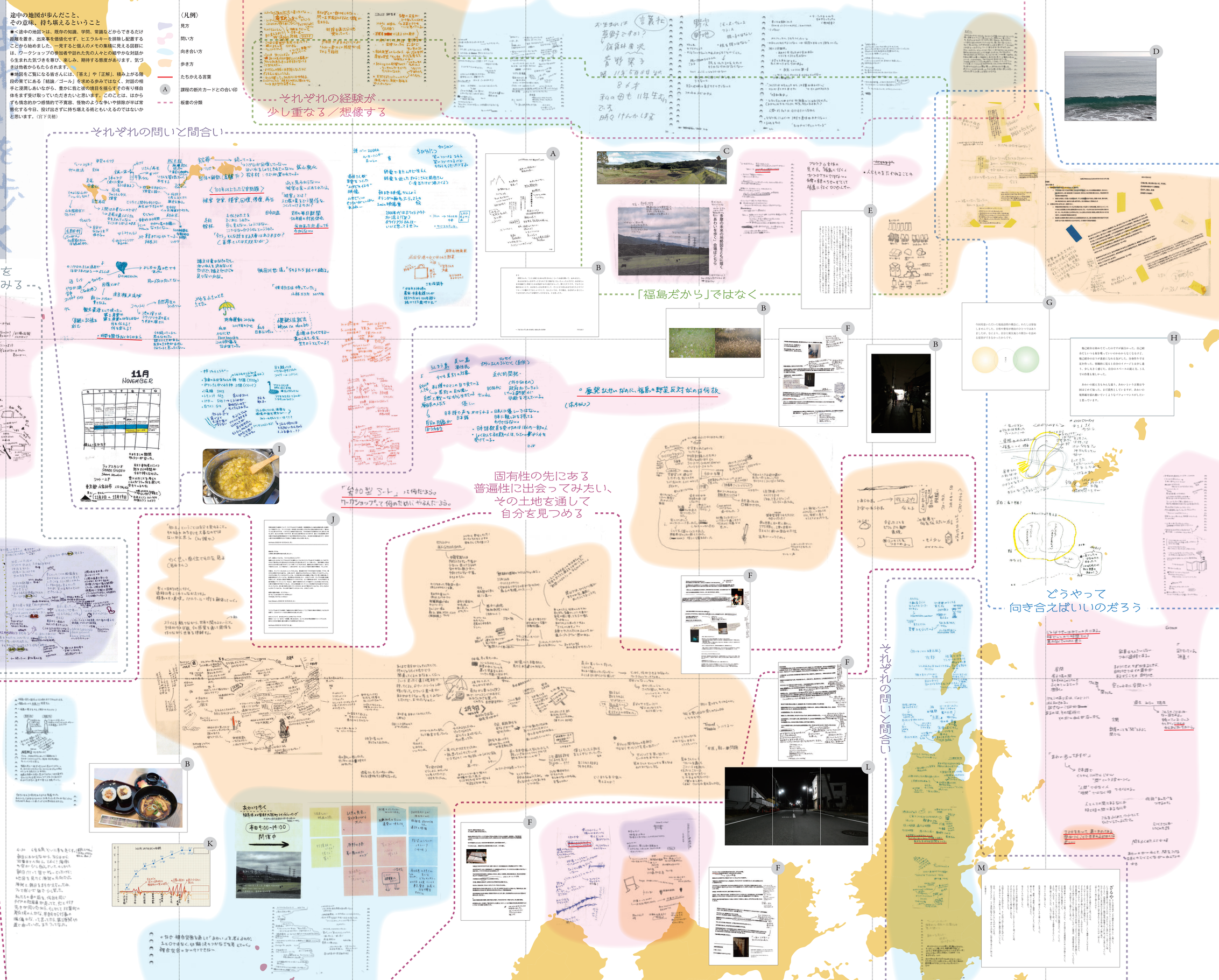
◉「あわいを歩く」を共にした皆さんの、気づきや思考の過程、ある瞬間などを、共有していただきました。せひ、並べたり再配置したりしながら、皆さんの気づきや思考の変遷を論つてみてください。一見、個々の繋がりの見えない断片的な気づきや思考のようですが、どこかで交差していたり、滲み出ていたり、それらが重なる部分があったりします。この先、自身で「歩いてみる」時のちょっとした手がかりとして、ご覧ください。

途中の地図が歩んだこと、その意味、持ち堪えるということ

◉＜途中の地図＞は、既存の知識、学問、常識などからできるだけ距離を置き、出来事を価値化せず、ヒエラルキーを排除し配置することから始めました。一見すると個人のメモの集積に見える図群には、ワークショップの参加者や訪れた先の人々との絡やかな対話から生まれた気づきを尊び、楽しみ、期待する態度があります。気づきは他者からもたらされます。

◉地図をご覧になる皆さんには、「答え」や「正解」、積み上がる階段の果てにある「結論／ゴール」を求める歩みではなく、対話の相手と浸潤しあいながら、豊かに我と彼の境目を揺らすその有り様自体をまず受け取っていただきたいと思います。このことは、はからずも情念的かつ感情的で不寛容、怪物のような争いや排除が半ば常態化する今日、投げ出さずに持ち堪える術ともいえるのではないかと思います。（宮下英穂）

〈凡例〉
- 見方
- 問い方
- 向き合い方
- 歩き方
- たちかえる言葉
- A　課程の断片カードとの合い印
- 板書の分類



Wind/air = 客知者
field の木々をゆらす。
電線をゆらす
field の空気と交わる
ことができる。
写真 = field note
撮影すること
選択すること
撮影と同時に、これを
撮った自分のことを考える。
この風景のことを考える。
知ること
work/ Lecture
そこにある
field
生きて 生きよ!

・何でこうなったのか。
何を創ることが出来るか。
エライことになってしまい。

・自分が一生懸命作って
住めばいいなあと
住んでいて、
友達を招く。

どれだけつぶやいて
したのかなあかないと
空回り、つらいのみ。
みんなつぶやい。

・たくさんの果物と
お茶会付の上で。
女主人。

けんちゃ。

・みてみて食べるから
こちらで聞く。

・耳が遠くなった
85歳のおばあ
ちゃんに、拡声器を
付けて話をする
「聴覚障害者」
という言葉を使った
人の伯母、とのこと。

・大きいこと。
パパ、でかい。
~~[illegible]~~ 作ってくれた。
人が近づく
建物ができたので新築。
人暮らし。

人という風景に出会う
まなざし　表情　語り口
その日の気候が服となり
風のように声が届く
その皮の内側にも
見えない風景が広がっている

・80年の歴史、その中の
10年は、[illegible]失い。
歴史に沿って、等身大のこの
ないて性、土地。
今はなおせない。

戦争に生まれた。
土とすべてを教えてくれた
自然の成りたちの中で
子どもを育ててきた
こだわりの
こと、ことのせて
心をなわす
言葉でした。

選手の家族も
ピンがきりで見てきた。
公民館に通って、学びてきた。
子たちは、10つ以上はまれるから。
プラーに大学もいって良い会社に
つとめた。

・自分が
公民館で学んで
何かが…
でも、大きな役割を担ってきた…
自分(若い人)で公民館の何か、
公民館が育んでくれたこと。
たくさんにしたいな。

みてたきゅう
と聞く?

(まちの)

三十年ぐらい、考えた…
森山さん。

間違ったこと[illegible]なきゃ。

A

（佐藤）

風景の中に入る

そこに体を置く
足の裏で地面と繋がり　歩く
くうき　おと　おんど
におい　じかん
目を瞑ってみる

きょうのここ、きのうのここ
先週、1年前、5年前　10年前
100年前、千年前、万年前・・・
もしくは100年後　など
過去や未来の時間の重なりをみる

・さんぽする
画面の中の
聞こえる　どうぶつ？
・外の音は
ひろがっている。
・5年前には
全く何もなかった
場所。
・15年前には
家は建っていた
・100年前には
家はなかった。
・1000年前には
家があるか
わからない。
・たぶん、変わらない
田園風景。

・晴れた
田園風景
家までの帰りを
歩く。
・小金井学習館は
晴天。武蔵野の
晴れに近い　きれいな
場所が、~~[illegible]~~
目にはっきりと
外では小鳥のさんぽが
聞こえる。~~[illegible]~~ 16:00過ぎ

・まるみが
学習館にきて、
古民家周の
建物を珍しげに
見ている。蕎麦
屋さんがあるようだ。

・音とく先、
温度、
においがない。
~~[illegible]~~ 問答を
聞いてると
眠くなってくる。
もういいかも。

・画面にiTunesの
パスワードを要求
メッセージが
出て、いいたて
村の風景の上に
重なった。

きれいなサービス
だ！ですが、
マスさんの200にゃんを見る。

ガタガタと画面が揺れる。
手で移動すると、電波が安定し、
画面が戻ってくる。
15分間、フラストレーション。
することがなくて　イライラ。

・マスクが　必要。

画面の中の人たちも
マスクをしている。
感染の影響は
来ないにしまいけど、
コロナの影響は
来ないにも不安感をもたらしている。
でもコロナは
すぐ収まりそう。事件にはつ
いて、感染ほどの怖さも
感じてない。

・さんぽする
画面の中の
聞こえる　どうぶつ？
・外の音は
ひろがっている。
・5年前には
全く何もなかった
場所。
・15年前には
家は建っていた
・100年前には
家はなかった。
・1000年前には
家があるか
わからない。
・たぶん、変わらない
田園風景。

まぜ　フクシマ？

表情の
ミナマタ。

フクシマが
ゆれる。

（佐藤）

風景を体に入れる

・内容ではなく
自分、

ーつトルだけでなく、
しくみ、まるごし…

A

（佐藤）

yuichisato.n21@gmail.com

原発〜は関係のない
風景をルポしたい。

冬は寒さ
雪深い?

あまり知らない。
自分と関係のない

食品館村

風景を想像する

「いいだて」ではなく
「いいたて」

全て事件が多い?

アマブクロ山系

たしか去年向井の
バリエーションルートで
遭難されてた?

文章でなくても、
絵でも。ものでも。
気になったこと、感じたことを
（書き）留める。

これから行くところを
想像し
持っている印象を留める

汲瀬川の
名所が多くある。
気がする。
ハットリくん

最近（いって）
修学旅行地域が
解除された?
福島県宣言は続いている。

原発報道

もう復興はできるぐらい
進んでる?
できるぐらいの人が
戻ってきた?
を意識で生活環境を
戻したい。

ボランティア?

もう終わったこと。
トのもうこと拒否してる?

A

（佐藤）

＃1

どうなってくんだろう、と身を任せていく感じ。

なんのためにやるんだろう、って。不安はあるんだけど、わからないっていう状態を楽しむ。全部説明されたりすることが多い気がして。説明もきちんとしましょうみたいな。

そういう場にいる方が普通じゃない？でもそうじゃない場にいることにワクワクした。不安を共有しながら、楽しむみたいな。

これを体験していくと、自分はどう感じるのか、想像できないよね。でもそれが、「体験」だと思う。自分で実際に触ってみたりしないと、わからないから。参加していったら、どうなるのかな、と感じた。

←わからないことを楽しんでみる

芦沢友紀子

＃2

東京で、飯館村の風景を見ながら思ったこと。私は畑が好きだから、ここの畑は誰かがお手入れしている畑だな、とか、ここは誰も手を入れてないな、とか。私が思っていたよりは、ずっと手が入っていた。私たちがそう感じるということは、現地の人たちは、「手が入ってる」と見られなくちゃいけないっていう、プレッシャーを感じて暮らしていたりするのかな、と想像しました。埼玉の方では、一斉に草刈りしているのを見たことがある。たぶん雑草の生え放題が敵視される文化もあったりする。そこに住んでいる人たちの人手以上に、「刈らなきゃいけない」みたいなのがあるのかな、ないのかな、とか思いながら見ていました。

菅野さんの話を聴いて、今時テレビだと方言に全部字幕が入るけど、字幕ない！って思った。普段文字情報に結構助けられてるんだな。その方言を聞き取れているかのように錯覚してたな、と。あとは、私の実家の祖母が、地元の人と喋ってた会話を思い出して、あの時もこういう感じで、わからず聞いてたなって。

私のおばあちゃんは兼業農家で。里山みたいなところにお家があって。楽しかったの、遊びに行くのが。あと父方の方は、庭でお花を育てていて。今の私の畑好きとお花好きはその経験から来ていると思う。私の原体験。

←雑草も綺麗だよ

芦沢友紀子

＃3

菅野さんの、「土と太陽さえあれば生きれる」というお話を聞いて、沁みるなと。

あるおばあちゃまがずっと守られてきた畑がなくなっちゃったんだけど、おばあちゃまが高齢だし草取りとかお世話するの大変だからって、閉じたそうです。でもそこに畑があることで、おばあちゃまは草刈りして、そこに立ち寄るおばさまたちとキウイフルーツの棚の下でおしゃべりして、なんというか、その畑は、おばあちゃまにとっては生きがいのような場所だったのかもな、とも思ったり。

＃4

道路にみなさん立ってらっしゃって、ヒソヒソ声で喋ってて。映像が、一定のリズムでついて、消えて、ついて、消えて。ずーっとついてないからこそ面白いよね。暗くなるから、その時に何かが動くと、次ついた時には状況が変わっている。どんどん出来上がっていって。暗いながらに道路に浮き上がってくる感じが。でも、ありそうな住宅街の風景なんだけど、ああゆうふうな住宅街が続く道路はないなって。不自然だなって。

岩井さんが、私たちに、「これっぽい道路を探してください」って住宅街の写真を送ってくれたじゃないですか。だから、運転中に、それっぽい道路をずっと探してて、「どうしたらぽいって感じるのかな、私は」って考えながら、曲がり角を曲がるんですよ。すごい新しい建物があったりすると「ぽい」と思わないのね。で、「あー、っぽい」、とおもうのは、自分の年齢ぐらいの建物。でもね、ぽいなと思った道を、一回曲がって二回曲がると、絶対ぽくない道に行くのね。曲がっても曲がってもあの道路という道はすごい少ないのかな、って思ったの。府中界隈だとね。

←つづかない風景

芦沢友紀子

このワリバシは、岡山県内製材でつくられた
安全安心で使えば使うほど森が再生される、間伐材のワリバシです。

#5

体験したことがない場所、行ったことのない場所で、みなさんが防護服を着ている状況が、海外の映画のようだった。同じ時間で繋がっているのに。異空間、だけど距離はさほど感じなかった。ここ数年 Zoom を使ってるから、距離を超えて時間を共有することには慣れてしまっているな、って。

こちらではお味噌汁を用意して。みんなで好きな具材を持ち寄って入れました。家に梅の花が描かれたお椀、会津塗りの漆器があったので、ちょうどいいなと思って持ってきました。ライブ映像の中にも熊町小学校の梅の花が写って、あ、と思った。でも、枝が切られてないな、とも思って。梅の枝は本当は切ったほうがいいんですよ。「桜切る馬鹿梅切らぬ馬鹿」と言うことわざがあるくらい。

←お味噌汁を入れた漆器の絵柄と切られていない梅の枝

芦沢友紀子

2021年(令和3年)9月7日

農業共済新聞

NOSAI
全国農業共済協会

「ドローン宣言」

田中 孝

[illegible]

生産現場から

[illegible]

1.

「風と土の家」に、「ふくしま再生の会」理事長
田尾陽一が書いた新聞記事が置かれていた。

C

（キンバリー）

40

2.

みなさんと一緒に双葉駅の近くを歩いて
「原子力明るい未来のエネルギー」の
看板があった場所を探していた。

（キンバリー）

C

シェアハウスと食堂

kashiwaya通信

2022.10
vol.3

旧「柏屋旅館」がまかない付きのシェアハウスに形を変え、運営開始して早くも4ヶ月が経ちました。

悠葉町で暮らし始めた住人たちの日常を、様々な角度からお届けします！

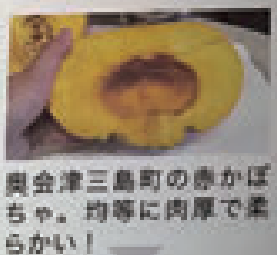
今月のひとコマ！

kashiwayaの住人を中心に幅広く部員が増えつつある「kashiwaya菜園部」のひとコマ。畑作業が楽しすぎて、普段とは人格が変わってしまう人もしばしば。こんな笑顔を初めて見せてくれたのは部員の"なかじー"。

まかない日記

お盆明けに集まってくる各地のおいしいもの

共同生活の楽しいところの一つかもしれません。お盆休みに出かけたり久しぶりに地元に帰った住人たちから、お土産で各地のおいしい食べ物をいただいちゃいました。徳島のすだちや、岡山のきび団子、千葉の梨、山形のフルーツジュース、会津の赤かぼちゃ、中通りの桃、ぶどう等々！ありがたやー

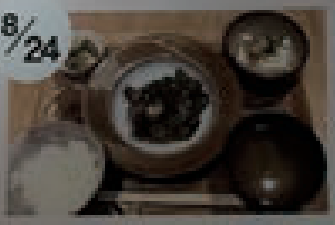


奥会津三島町の赤かぼちゃ。均等に肉厚で柔らかい！

赤かぼちゃと牛肉の煮物

「地元ではどんなふうに料理して食べるの？」などと会話しながら、その人の育った風土を想像して、豊富な食材に舌鼓を打つお盆明けを過ごしました。

焼き秋刀魚&徳島のすだち



茄子とししとうの肉味噌炒め

豚つくね&みょうがごはん

食堂は今後、地域に開いた夕飯食堂として平日営業させていただく予定です！
その他、休日にはイベントとしてカフェ営業の企画もございます。お楽しみに！

3.

「シェアハウスと食堂 Kashiwaya」に伺い、
通信をいただいた。

（キンバリー）

C

maisonnette

4.

家で菅野さんからいただいた餅を焼いてみた。

（キンバリー）

C

MAR 11 2011 14:46
MAR 11 2021 14:46
MAR 11 2031 14:46

Re Start
エクセレントユーティー
原子力頼るいま 未のエネルギー
入居者募集中
管理会社
双葉不動産
FRE
浪江駅前
☎0240-35-2950
40

5. 看板の時間

初めて双葉町に行きました。駅の周りには、すでに新しい住宅が建てられ、住んでいる人もいるようでした。並びに、時間が止まったような商店街の店と、色々な壁に描かれた大きくて311について描いたアート作品が目に映りました。311の「前」と「後」、という2つの時間が、異なる肌理で同じ空間に並存していると感じました。「原子力明るい未来のエネルギー」という標語の記された看板があったところを探そうと、旅の仲間が提案しました。今、その看板は、「東日本大震災・原子力災害伝承館」に所蔵されているようです。元の看板はなくなりましたが、隣に立つ不動産の看板にある「原子力明るい未来のエネルギー」の映った町の写真が目立っていました。元の看板は、違う場所にあります。そして、看板に映った写真は、元の場所に未だに残されています。

（キンバリー）

最後に、「触る前にその周りを大切にする」という藤城光さんからのお言葉は、心に響きました。

C

（キンバリー）

いき場をなくした波

楢葉町山田浜の堤防より寄せる波だけを撮る。
情もなく置かれたテトラポットとコンクリートの津波。
白砂の浜は消え堤防を打つ波の鼓動だけが遥か昔と変わらない。

二〇二三年一月九日　瀧本広子

―街は生きている―と言うマンガかドラマが有った。それを何カ所か歩いた時ふと思い出す。今回の土地たちへ「生きてますか？」と問いかけたくなった。
なぜなら（建設家さん主導のように）整然としてキレイで、（自然と一体感は見られない）人工的道路や公共物などの雰囲気がしっくりこないから。自分の直感では何となく味気なくて、その現場での暮しやヒトの営みを感じられない。言い換えれば街のつくりとヒト自然とのバランスが大切なのだ。本来そこがしっくりするのがあわいともいえる。仮にバランス取れなければ、どちらか変わるまであわいを目指して努力しなければならない。
ちなみにその辺りでは、古くて懐かしい建築物はみな柵で覆われてた。家主が戻れないでいるところ、その我が家を壊し無くして更地にすれば費用補助が貰えると決められた。古いものを無くして新しくするのが良いか？古きを尊び、今後どうやって暮らしていくのか？それがどうで有っても、変わるまであわいを歩いてみよう。

12/2(金) 東京都写真美術館、展示室行きのエレベーターで、清掃員の方に遭遇。

シャッターチャンス、でも撮れない。
(スマホ向けるの申し訳なくて…)

他にお客が乗ってきて、撮った1枚。
これ撮れただけで…来たかいあった。

とられるの、この方
気づいてないと思う。
スマホいじってるみたいな
感じでとれた。
岩井さんの作品見に来てる
し絶対さとらなきゃと。

自分達が外国人になった感じ。
→ 自分達は知らない
分、観光客が
(じゃない)大変だな」って
見てるのと
そんなに
かわらない。

映像の感想は、音声ガイドの作りが(笑)

11/20(日) 完成した映像が公民館の壁に投影された時、壁がモニターになった質感と、路上のスクリーン(木と紙の質感違い)のレイヤー、さらに奥の信号までの奥行き。壁に投影された映像を皆が観てる映像を、撮ったら、永遠に入れ子状態。

作業時の音が…映像になると静音で、、雨音もよかった。

せいせきでとったあとに、
あそこで 昔で見れたの
がよかった。
公民館のかべのしかん
がスクリーンになったのがよかった。

みんながしょうかいしたい(映像)ほしい。

アスマス美容室

髪をカットしないコンセプト美容室。あたらしいかたちのひきこもり支援が実現となり、髪と紙にまつわるストーリーを感じてもらうクリエイションサービスを提供します。髪を切ることでこころを切り替え、紙に移った自分をみつめることで自己と向き合うように。この美容室へ訪れた人が少しでも、来る前よりもこころが軽くなって、自分を肯定できるようになっている。そんな場所をつくることを目指しています。いっしょに活動してくれる人募集中。

アスマスの美容室

11/18(金) 岩井さんのシェアアトリエ、終電で逃し戻った時、武蔵美君と"ちびガッツの動画観て、森山さん抜けた後のオススメyoutube紹介、自分の番パスしたが…ボランさんいて、伝わり方注意した。

・アスマス美容室 ロングver → アスマスをしょうかいしようと思ったけど…

ブルーシートを(ほんとはシルクスクリーンとかで)髪を切る時のカットクロスに見立て→そこに今まで自分に「投影」されたものを映し出す、、(プロジェクションしたい

【課題】投影されたら嫌だという気持ちからか…?! カメラを向けることに抵抗があり、こういう場所などの記録写真も、撮れない。 → あれ WS中にとれないなって

とれないかんかんとは
話しかけられない
かんかんと同じなのかな。
とってもいいのに、こっちが
勝手にとれない。

1/21のシェアスタジオおつかれさまでした！
前半の榛葉さんの「表現」の話…自分にとっては変化が、それにあたるかなと。

同じ番組見てた
気がする。

で、榛葉さんがしてた味覚のイノベーションの話は、1/17のデジタルハリウッド大学の藤井直敬の講座、宮下芳明さんのゲストの回のことかな?! 前からAR三兄弟 川田十夢さん好きで、その流れで現実講座たまに視聴して て、、

十夢さんは、AR=拡張現実を2010年頃から、技術を面白く伝えるため活動…わりと初期から追ってる。

ひきこもりの部屋を拡張現実してくれたら、、とか、あと1976年生で、同学年。

青も東治
→ 森と家の
間をとった
写真と、
この中で
うつった
変わりまる
路にかたこと
いた。
3じゃ大事
だと思わ
なかった
から、何で
自然像
にしてるのかな

11/18(金) 10/23(日)岩井さんWSの初回前に、ML共有の写真と文章『記憶の中に、似たような場所や「っぽい」場所』見た時に、7/30サンデーインタビューズのために、フィルムの映像と故青山真治監督の作品を観たくて、図書館で借りた「路地へ 中上健次の残したフィルム」の中に、自分の曾祖母と似た姿(乳母車)を押すが、写ってた。

1/10 埼玉の実家にコロナ以来、寄って帰りました。

(1/11のシェアスタジオは、18時まで待ってる間に寝ちゃったら、20時過ぎてたので…参加できませんでした。)

かなり偏った感想ですが…
長文大変失礼しました。

福島のことは、また書くかもです。

3年ぶり。
電話しちゃってるから、
変だなってる感じはしない。

夜の草原 (森山の聞き手ちがえ)

みんなとかまちに
スクリーンを立て、
夜のみんなで見る。
岩井さんの
が思いがこもれる

去年見て、
みなまたつなかり
で「あかを生きる」を
見て、

12/24、WSおつかれさまでした！

前回11/20、ふりかえり皆で公民館で鑑賞していた時にも、感じたのですが…
一昨年の多摩の未来の地勢図、高橋伸行さんの回の時に、佐藤真監督のDVDを借りて「阿賀に生きる」「阿賀の記憶」観た。
「阿賀の記憶」は完成した「阿賀に生きる」を住人たちと一瞬に観るシーンがあって…自然の中にスクリーンを立てるんです。以下の記事 」

そのシーンが凄く好きで自分でも、当時写真を映画観ながら、画像を撮りました。

「投影」を知りたくて岩井さんのWS参加したが、トモトシさんのアイレブンの作品はコピー。自分が人から投影されるのいやだから、カメラ向けれず写真とれなくて、映画の画面撮るとか… うつつ。

＊についてはシェアスタジオで共有したいことが…

2021年当時、佐藤真特集上映を会期中に知り、正直監督が自殺したという所に引っかかって観た。作品は☆「まひるのほし 」、正直な所。併映の＊「牧師といのちの崖」監督は、佐藤真さんの助手だった方みたいで、、

☆障害施設のドキュメンタリー
＊助けを求めてきた人に牧師が強く諭してしまい、最後に自殺しちゃう。

その言葉が「なぜ、いろんなことを飛び越えて、スーパーバイザーにいくの？」ていう、牧師の問い。
結構自分に当てはまると思っていて、WS参加してるのも…アーティストに直接聴けるからだし、、佐藤真作品、2021年も昨年も上映してたみたいだが…観れなかった作品。「SELF AND OTHERS」

1/8,9の感想…
＊1日目撮影終わり飲んでた時、世代の話ロスジェネで、制度について甲子園を例に、宮下さんも箱根駅伝のことに(笑)言ってたが、センター試験とか色々、全部プロになる道がそれしかないとか、制度が破綻してるのに継続したり…やはりイノベーションや、変換求め、プロジェクト(アスマス美容室)は、やりたい。。

思いはないのかなー。
ことに対して、みんな何も
システム作ってせん勝ちみたいな

＊刃物の話、ちょうど年末に日本製の包丁買おうとするも、初詣行くし、縁切れたら… 年明けも買えないと保留中ですw

宇都宮でWS後餃子食べた時、干支の話になって、、巳年(1977) 、須之内さんも…しかも誕生月9月みたい、で1つ下。

ロスジェネ、そこで変われたら良かったのに、、1995年阪神大震災、地下鉄サリン事件。

95年で18才で
高校卒業のタイミングで
自分もだし、社会自分に
何で変わらな
かったのかなって
思ってた。

結構(破壊)だから、2011年の東日本大震災は、すごいチャンスだと思った。コロナも…元に戻りたいなんて、全く思わない。

物理的なものではないけど、関係性。

愛錆しっぱいして、かめんろうんして、短ストって、壁にスらずに
ひきこもっちゃった。

現実歪んでる…1/8のWS前日にラジオ「風とロック」で、スネオヘアー♪のヒコウという曲が流れ、そのMVを制作のヒロ杉山さんがゲスト、写真を擦って絵のように見せる手法、行きの電車で観てたら、福島の車で移動中、夜だったが、頭の中でその映像を思い浮かべてた。須之内さん・森山さん運転ありがとうございました！

こういう文章おくえじひで破壊癖なんじゃない？

暗い中で
いたけど、進んで
るというイメージ。
ああいう イメージ
ですすんで
たらいいな。

車のドアの開け閉めも不慣れで、後部座席に乗ってた岩井さんも困惑してたと思う(笑)

経験的道路なプロジェクション作業の手順を理解も、石畑さんとか…出来る人が準備し待機してたら…自分は邪魔でしかないなって、回を重ねるほど感じました。

※初回練習参加、グルーガン使い方とか。

福島に入って特に双葉は、WS をやってるというより、岩井さんの作品なんだと。 → 除中まではワークショップ。
たったけど、完成したあと
岩井さんが主で作品をながめ
たときは、
岩井さんの
作品
なんだ
なって
思った。

先日事業所で、パステル画やった時、目指す色があって、youtubeで画用紙濡らしてから、パステルで書いてばかす工程。
その動画見てたら、WS中水で濡らす作業は、消す行為にも感じた。

アスマス美容室やる時、まわりも自分も当事者意識というか、そればっかりだったけど、今はやってないからなのか…

当事者意識は消えた。

今まで
かってで とうろいされた
ものが、かんかんてきなことで
消えるんだと思った。パステルやったときは、

あの日岩井さんがまんなか立ってって
言って いちを決めるとき、
そのときにとうろいされたときに
当時者だと自分が思ってたり、
他の人にとうろいされてるって思ってるかんかんが生えた。

赤カブのつけもの
を描いた。

同じぬらすでも、
消すためにぬらす。
消えていくえんぞうに
リンクした。後から同じ
行為をすると、感情がよみ

正真全部違うかなって。
道中とセットになる。
旅があって、目的地について。
せいせきだといきなり感がおった。
全部じゅうたく街行った。たけど、
~~旅をしてって~~ なれたせいで、日常っぽくなった。
~~せい~~ より見えない感。
せいせきは最
作業してる方が非日常感

アントナン・アルトーから折口信夫の「ほかひびと。」とウィルスの話。
9月の100分で名著が折口信夫で、「ほかひびと」のことを知る。

Eテレの番組

最初ひきこもり支援やりたい理由の1つが、*いい子(人)ペルソナを剥がす。

*投影された人格を演じなくてよい。が出発点で、プロジェクトスクールとか通うになって、外から当事者とかそういう言葉が出てきた。

アスマスは、チーム名決める時、たかすかさんが俳句やってたから、17の〇を作って順番に埋めていったら、『アスマス目聞くオニ鬼はアメこよいサス』→アスマス美容室になって、分身ダンスも鬼でいうか、自分の中のモンスター的な。

2/3(金) NHKの京コトはじめで、鬼は「方相氏」やらなんやら、、

2/5(日) たまれ、最後片付けの時に、本が置かれてるスペースで見つけた、中平卓馬の本☆。2017年多摩映画祭でニュードキュメンタリーで「きわめてよいふうけい」上映した時、図書館で借りてペラペラ読んだ。

昨年夏、森山大道の映画「過去はいつも新しく未来はいつも懐かしい」観たら、中平中平ばっかり言ってたので、買った。

あちゃ火をすっても、
もえてるのはわかるけど、
なんなのかわからない
それを見てる中平さんが
印象的だった。だという
話をしてた。見ると見られる
見る行為
写真をとってた人が
何を見てたのか。

Pollution
汚穢と禁忌
メアリ・ダグラス
塚本利明 訳

芦沢さんと片桐さんが、映画上映のチラシの話していて…何の作品か「アートなんかいらない！」8月の相馬さんのトークが、あまりピンとこなくて…9月に観に行った。

月1本くらいしか、映画観に行ってないけど(笑)
4/1シャトーの上映会は、監督トークもあるんですよね。

問題解決はデザインの仕事だから、いくらアートをマネジメントしてもできない、みたいな乱暴な結論になった(自分的には)

アートマネジメント
カウンセリングとか
心理カウンセラーじゃない
方法でおもてなし
出す
方法を
考えていた
けど…

でも、ひとつだけ救いがあるのが…★「鬼とかほかひびとかな」と思っていて…

木戸の家にもあった、みのは「ほかひびと」の衣装なんですよね。

当事者当事者うるさい〜その衣装着れるのは、当事者だけだぞって、アスマス美容室の分身ダンスのカットクロスは、そういう思いもあったし、それを被せられた人は、その人格を生きなきゃいけない。てコンセプトにしたのは、ほかひびとが、みの着て踊ってるのに近いかなと思いました。

「鬼の研究」の本も読んでみたい。

「一対一しかない」
それはそうかなと思う。

先程の投稿の訂正

× 鬼→ 〇 オニ

アスマス目聞くオニはアメこよいサス

★双葉の撮影で1番感動的だったのは、明るくなり剥がす時に、スクリーンにした紙の粒子が見えたこと、四角い粒子の1つ1つにちゃんと映像が投影されてた。

それ以前の3ヶ所は、夕方の光でも見えなかった。
(後日追加メモ)

今までで、最長文大変失礼します。
すごく強引に、結論っぽくまとめました。

2/5(日) 東京からライブビューイングに参加、芦沢さんが用意してくださったお味噌汁、海苔巻き。。「恵方巻き食べれなかったから嬉しかった」などとお話ししながら、会場にあった本、「鬼の研究」と中平卓馬☆「なぜ植物図鑑なのか」。

1/8・9「福島行ったこと」は、1/29ZOOMで振り返るまで、あまり言語化できず、、

「アイヌモシリ」は、…曽我栄子さんの回の前に観たかったが… 1/17に観た。

1/28(土) TAMスタジオのゲストが、森隆一郎さんで、1/23の勉強会以外、何も情報入れずにトーク聴く。

2021年TAMスクールは、当事者性がテーマ、金森香さんがゲストで…アートマネジメントに関わってなくても、*参加できた。*アスマスで元ひきこもり当事者として?!

TAMでの自分の立ち位置は、当事者としてだから、森さんへの質問も、震災の被災者とか、何らかの当事者に対してアートが出来ることとは？

小松さんがつくった言葉

小松理虔さんの「共事者」ということばを教えてくれた。

その後、懇親会に参加せず、山村浩二さんの「幾多の北」を観に行った。

もちろん、作品もだが、ゲストトークが、ピーターバラカンだったのも…

田中泯「名付けようのない踊り」のストーリーテラーが、山村浩二さんのアニメで良かった。「幾多の北」も、北は東北限定のことではないが、制作が2012年4月からでらしい。今回の福島の旅…

自分が過去色々なWSに参加して言語化できなかったことや、散々、元当事者がなんたらかんたらで言われて疲れたとか、カオスが。。

c
12/24 宇都宮の帰りの電車、相馬千秋さんの話に、TAMスタジオでトーク聴いたから、少し会話に参加。

8月相馬さんのトークの前に、「裁かるるジャンヌ」観たら、ライナーノーツに「演劇とその分身」本の作者アントナン・アルトーが、映画にも出演していた。

プロジェクトをやってたときは
当事者と名のった。
ギャンブルやってたから
いそんしょうの方が
強いから

双葉の撮影終わりかけの時、「震災後いつ来たか？」とか、
海見に行った時の、「震災時どこにいた？」は、、
写真を撮るみたいに、話が聴けた気がして嬉しかったです。

いつも自分が写真撮れないと思ってるのが、解消されたというか…

すごいなと思ったのが、シェアハウスも福島だったなんて、自身のアーティストとしての活動とか、あわいでファシリテーターしてることに対して、森山さんが経緯や思いを話さずにやってることが…
2023/01/29 11:38 前田

その時に聞きたい
写真とるかんかくで聞けた。
何もいしきしなくてもあの場にいたら、
自然に言葉が出てきた

1番肝心な所間違えた。ついでに…

Jヴィレッジ駅で。

1/8・9 WS終わって、帰りの一人旅モードになってた時に、須之内さんが戻ってきて、福島のこと聞いたのが…

「どれぐらいぶりか？」

逆に、WS中は枠にとらわれた会話してたのかな？と感じた。

急に天気が良くなって、写真撮ってた。

2/5
テレビの取材とまったく違った。
伝え方とか、本人が直接言ってることは
こんなに違うのか
同じライブ映像だったとしても。

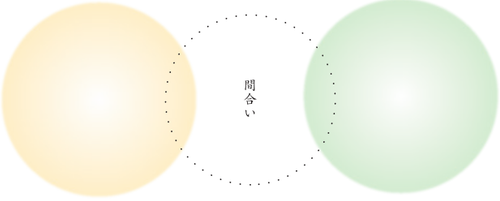
↑図書館へ
返しに行く
前田さん。
とらせてもらった。
(森山)

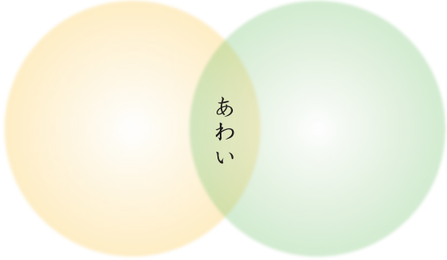
あわい

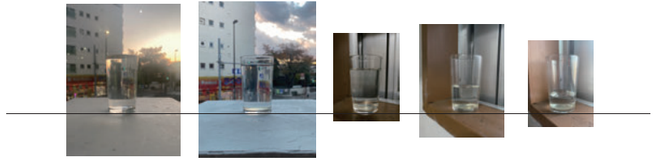
（わたしと場所／移ろい）

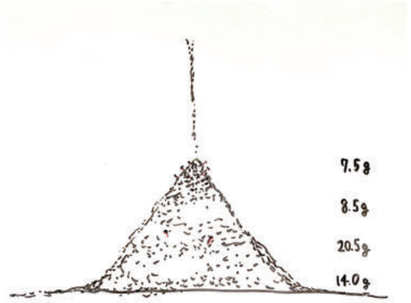
田中有加莉

今回用意いただいた福島訪問の機会に、わたしは参加しませんでした。日程や費用が理由のひとつではありましたが、なにより、自分と被災地との間合いを詰める覚悟ができなかったからです。








7.5g
8.5g
20.5g
14.0g

他己紹介は初めてだったのですが面白かった。自己紹介だといつも何を喋っていいのかわからなくなるけど、他己紹介のほうが素直になれる気がした。分身作りでは足を作った。客観的に見ると自分のイメージとは少し違う、少し大きく感じた。自分のスペースの捉え方。3人での作業も楽しかった。

あわいの捉え方もみんな違う。あわいという言葉は今回はじめて知った。まだ漠然としていますが、あわいの境界線を揺れ動いていくようなパフォーマンスがしたいと思っています。

秋のジャムづくり

写真を投影する場所について、「どこでもなさそうな風景」（区画整理など人為的な痕跡を感じる場所）という視点でいくと、アノニマスな分、何を感じるかは見た人それぞれに委ねる部分が大きい、開かれていると思うのですが、一方でそこに参加する私たちは、その行為をする文脈をもう少し探りたい気もします。あとただの思いつきですが、暗くなると道が見えなくなりますが、道という生活空間に対する個々の私的な記憶を喚起させつつあの写真が浮かび上がると、また受ける印象も違うので、日中の人通りのある時間帯からカメラを回しても面白いかなとも思いました。

Ishihata 2022 年 10 月 24 日 (月)
==========

興味深いですね。
と同時に僕の説明の拙さも感じましたー。

以下、返答というよりも、つらつらと考えたことです…
強調したかったのは「どこでもなさそうな場所」というよりも「どこにでもありそうな場所」という点です。それは「僕が見上げた空はあなたたちが見上げた空と同じか？」という問いだし、「僕が掃除した街はあなたたちの街とは違うのか？」という問いへとつながります。抽象化された場所ではない。あそこで起きたことは、ここで起きない、と言えるのか。もしくはここで起きた場合の想像力、でしょうか。

文脈は、キンバリーさんもおっしゃってましたね。参加者の方が「その行為をする文脈」ですか。僕がそれを明示するのも違うな、と感じるので、参加する人それぞれによって変わってくるのでしょうし、それぞれが紡いでいくものなのでしょうね。ただ僕が言えるのは複数人で路上での（再）体験を通して、記録を解きほぐしていくような、別の開かれ方を共有したい、と考えています。そしてその記録（映像）を見た人が、また違った視点で展開されていくのだろうな、という期待はあります。だから今回行う 3 回の実践は「ワークショップ」ではなく、通常？の制作のスタンスで進めていった方が良いのだろうな、と帰りの電車の中で考えていました。こちらが参加者＝オーディエンスを想定するのは違うのではないか、というように。真っ直ぐ制作に向かっていくのだけど、あくまで開かれているような。のりしろはちゃんと付いているような。そんな形で進めていけたらいいな、と考えています。

昼間の道路の映像、そうですねー…
あ！ちょっとまた別のプランが浮かんだ！
それを試してみてもいいかもなー

Iwai Masaru 2022 年 10 月 25 日 (火)
==========

「どこにでもありそうな場所」「抽象化された場所ではない」「ここで起きた場合の想像力」などなどの言葉で、こちらのイメージもまた更新された感じがします。

あわいについて、まだぼんやりとしか考えてないですが、
最初は " ここ " と " あそこ " の距離、間にあるもの、という二次元の焦点距離のイメージでしたが、
段々と三次元の垂直に重なる層のような感覚も出てきました。

Ishihata 2022 年 10 月 27 日 (金)
==========

このような機会がなければ行かなかったであろう土地に、時間帯に、そこに立つことで、単に写真を写すという再現ではない場所に立ち会えてよかったです。初期の頃に「どこにでもありそうな場所」「もしくはここで起きた場合の想像力」という言葉がありましたが、実際に体験してみて、「あるいは存在するかもしれない場所」だなと、思う瞬間がありました。このことと、放射能に直接的につなげすぎな感はありますが、除染土の再利用ということがどうも私の中ではつながります。

まだまだ終わりそうにない、終わるものではない、ということをあらたに認識しました。
…と書くとやけに放射能のことばかりになってしまいますが、”あわい”を考えるいい時間になりました。
経験的道路のプロジェクション、ありがとうございました。

Ishihata 2023 年 1 月 15 日 (日)
＝＝＝

“この世界がきみのために存在すると思ってはいけない。
世界はきみを入れる容器ではない。／
世界ときみは、二本の木が並んで立つように、どちらも寄りかかることなく、
それぞれまっすぐに立っている”

“大事なのは、山脈や、人や、染色工場や、セミ時雨などからなる外の世界と、
きみの中にある広い世界との間に連絡をつけること、
一歩の距離をおいて並び立つ二つの世界の呼応と調和をはかることだ。／
たとえば、星を見るとかして”

『マザリング 現代の母なる場所』（中村佑子）の中で引用された、
『スティル・ライフ』（池澤夏樹）の一節

1

K

230205 振り返り

学校内での災害時の受け渡しについて

・防災

・エネルギー問題

今日、初めて被爆者になった。

・"考える"ことが抜け落ちてる

└ 大熊海岸沿いはもう住めない

なのに → 防ちょうてい建築

→ 一般道の再建

県職員「発災前に戻すため」

→ それって復興…?

放射線物質

・"放棄"という選択肢。

・「本当にこれでいいの?」→ "考える"

・新しければいいのって違くないか。

・トップダウンで言われたことに対した"矛盾"を抱き、どこまでとどめれるか。

木村さん　東電「エネルギーを守ることは、みんなの命を守ること」

└ 今の状況で電気を買ってない

これって本当に必要?って考えながら生きてゆく

電気を使わない選択肢に気付く。

○ 恐怖、怒り、悲しさなどを体感できる空間がある/ない

○ のどが乾すぎれば、熱さを忘れる

(川瀬吏恵)

K

・自分が話すと、傷つく人がいる

、引きわたしの先生を責めてるわけではない…

└前置きをする必要がある。

、他者への配慮 ⟷ 言わなきゃいけないこと

└ 当事者が率直に話すことが大切

（気を使う第3者がじゃまをすることも…）

・怖い

、ストレートには言わない

└→ 相手を傷つけてしまうことも怖さないといけない

、「どんな風に見てるかは分からない」

思考停止 ┌ 気づいていない

向き合いたくない

（気付いていない）

広島

、加害者だった私たちからスタート

戦争をとめたのは、日本。

、広島が大本営。

、ガス ― おきのしま

のほとんど。

福島

、加害者？

被害者？

、南三陸の人

「原発で受け入れて

ゆたかになるのは

ありえない」

→ 大阪の人は傷つく。

加害/被害は

簡単に言えない

↓

責任

、問われるべき事

水俣

・チッソは私であった（オガタさん）。

（川瀬吏恵）

月日が忘れる中で忘れていく

・木村さん 200年は生きられない

・どうみなく、伝承していくのか

└ 私用ではなく、公用で入れるようになってほしい

大阪人口
・1万1000

広島は　原爆
・核なき世界へ
遺構を残しやすい

福島は　原発
?
人災、公害?
原子力災害?

単
内 ↕ ソト

□ ネガティブを受け取のられない日本
↳ ~~考えるか~~
耐えて考えるか

・シンプルな考え
海外 vs 日本
(アメリカ)

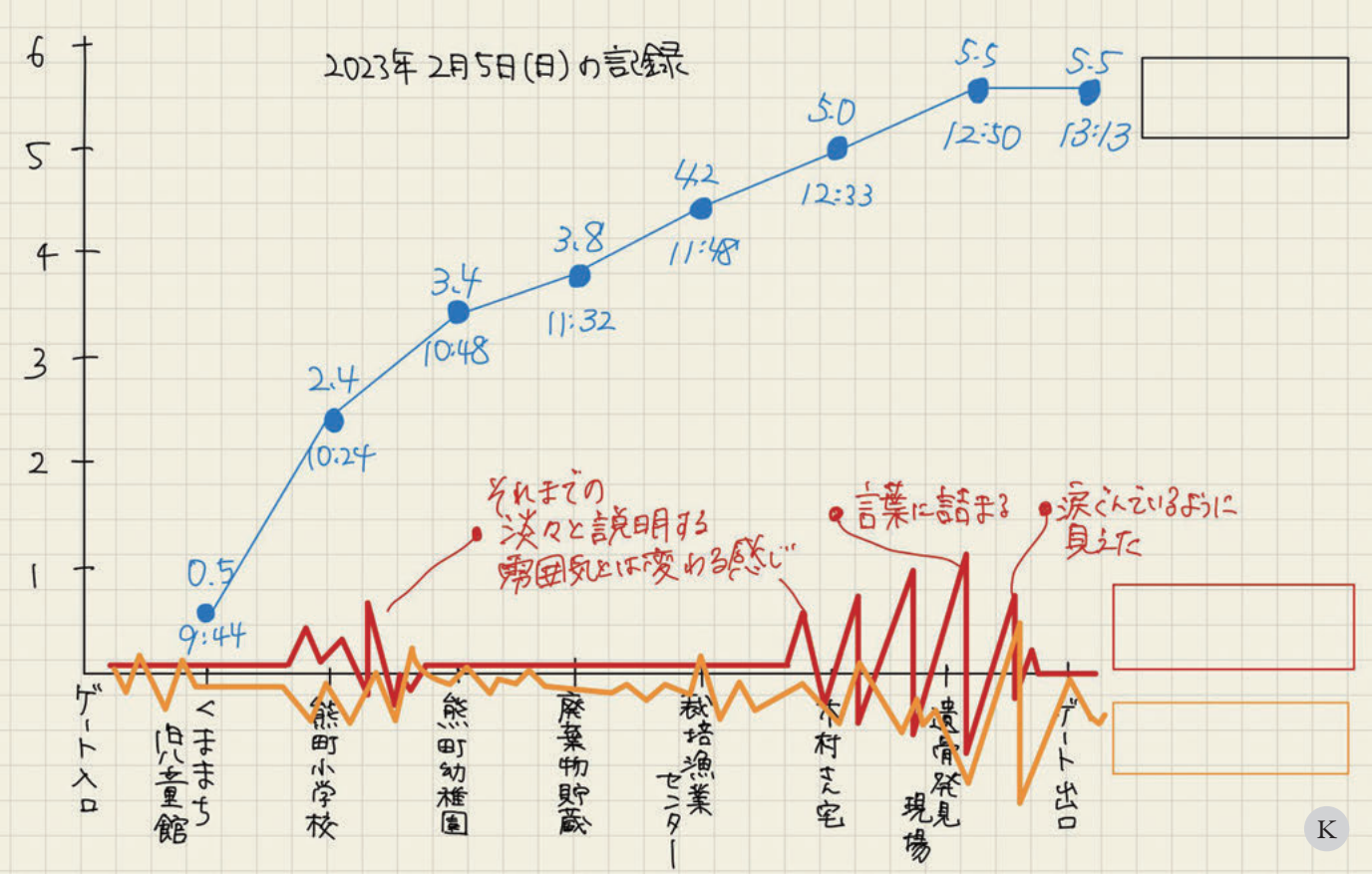
言葉のせいにしないと落ちつかない
↓
多様性

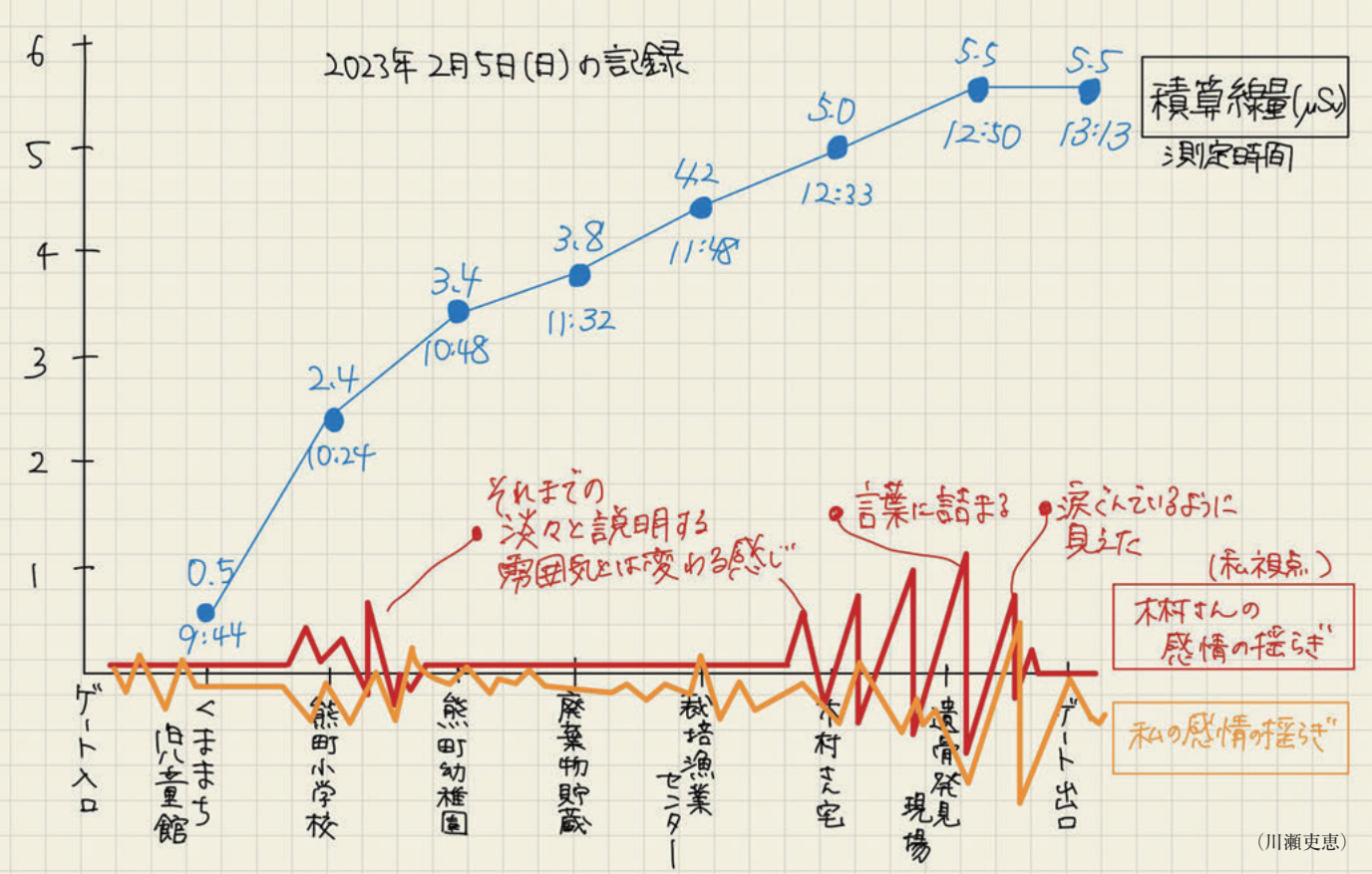
複雑な考え
グーだけと、解答のない考え
すべてつながる
どこが線?
分から立ち中でどう行う?

?

リヒターの絵
・絵の真の下にナチスの写真

(川瀬吏恵)


2023年 2月5日(日)の記録
6
5
4
3
2
1
0.5
9:44
2.4
10:24
3.4
10:48
3.8
11:32
4.2
11:48
5.0
12:33
5.5
12:50
5.5
13:13
それまでの
淡々と説明する
雰囲気とは変わる感じ
言葉に詰まる
涙ぐんでいるように
見えた
ゲート入口
くまもち
倶楽部館
熊町小学校
熊町幼稚園
廃棄物貯蔵
栽培漁業
センター
木村さん宅
遺骨発見
現場
ゲート出口
K


2023年 2月5日(日)の記録
積算線量(μSv)
測定時間
6
5
4
3
2
1
0.5
9:44
2.4
10:24
3.4
10:48
3.8
11:32
4.2
11:48
5.0
12:33
5.5
12:50
5.5
13:13
それまでの
淡々と説明する
雰囲気とは変わる感じ
言葉に詰まる
涙ぐんでいるように
見えた
(私視点)
木村さんの
感情の揺らぎ
私の感情の揺らぎ
ゲート入口
くまもと
県立里館
熊町小学校
熊町幼稚園
廃棄物貯蔵
栽培漁業
センター
木村さん宅
遺骨発見
現場
ゲート出口

(川瀬吏恵)

【感情の調査・分析中】

呼応する感情

あなたの声が震える瞬間、
あなたの言葉がつまる瞬間
あなたの顔が赤くなる瞬間、
あなたの目頭が熱くなる瞬間、
「あなたの感情」は揺らぎ、動き、心から飛び出ている。

「あなたの感情」は、「わたしの感情」をも揺らし始める。

それは、数値のように段階的ではなく、
時間のように単調でもない。
それは、誰かが、ましてや自分さえも、
コントロールできるものではない。

しかし、それは、不安定で、主観的で、一方的で、
根拠なきものであるのに、
「わたしの感情」が揺るがされるのは
「あなたの感情」によってなのだ。

K

（川瀬吏恵）

AVEDO

2022年11月20日19：55　（松田洋一）

2023年1月9日5：07

2022年12月24日16：46　（松田洋一）

2022年11月20日19：28　（松田洋一）

2023年1月9日5：07

ざるやさんの前の道が「まだ舗装もされて無くて」と聞いて。
あの道は今はコンクリートだけれど昔からある道のままなんだな。
いちど稲城を離れて戻ってきたのが、父が亡くなった後だから一五年くらい前。
そのときに、渋滞解消のために鶴川街道が整備されて広い真っ直ぐな道になっていた。
むかし住んでいた家の前の小さな道や小中学校に通った細い道が、
真っ直ぐに道を通したために切り刻まれてしまっていたのが「何とも」。
「何とも」何だと感じたのか？

ざるやさんに話しを聞きたいと思ったのは、
直接には去年ざるやさんの隣に「ざるやのとなり」という珈琲スタンドができて、
そこのオーナーから「昔からある酒屋だから、
ざるやさんからお話し聞いても面白いね」と言われたから。
でも、遡ってみると、やはりたましらべで府中の九〇歳の農家のおばあさまから、
府中競馬場をつくるときに稲城の大丸の山を削って土をもってきたという話を聞いて。
子どもの頃から見なれていて何とも思っていなかった風景が、突如意味を変えた、というのかな。
それで、昔の話をもっと聞きたいと思った。

稲城は多摩ニュータウンの端っこだけれど、小さな頃から宅地開発のために山が削られていて、
それが当たり前の風景だった。
だから、大丸の山も削られてあるのに何の疑問もなかった、というか、
削られていることにすら気づいていなかった。
それが、人の手で、もう一〇〇年近く経っても植物も生えないくらい
乱暴に削られていたんだ、と気づいた驚き。

見えているのに見ていない。

作家の姜信子さんは「鍛えているから痛くない」と言った。

鍛えて、頑張って頑張って鈍感になってしまった私たち。
痛くても、痛いことすら気づかない。
そういうことなんだと思う。

見えているのに見ていない。

ざるやさんの前の道に話を戻すと、
そこは子どもの頃から駅やスーパーに行くときによく通っていた道。
ざるやのとなりからも硝子越しに見える。
なんかその眺めが良いんだな。

今回ざるやさんを訪ねてみて、そこが四つ辻だと初めて気がついた。
よく見てみると、Y字路にもう一本、さらに細い地味な道がついている。

ああ、ここにも見えているのに見ていないものがあったなあ。
信号もなにもない（よく事故が起きないね）昔から人が通った形を残す柔らかい四つ辻。

（片桐美智子）

合わせ行列問題対策講座◉

◆ルーレットの目の数だけ進む。ゴールまで辿り着けるかな？

◇ボードゲーム部の合宿。夜、みんなでトランプ大富豪。ローカルルールが多すぎて、誰も勝てない。

◉ざるや訪問と…。稲城長沼駅で待ち合わせ。

◆*どうして片桐さんのご両親は稲城を選んだの?*

◇父親が読売ランドの近くのコカコーラボトラーズに勤めていて、都合が良かったのかな。両親ともに田舎の人で、田んぼがあったり畑があったりして、懐かしかったのかな。

◆*ざるやのお店番をされていた2人の女性、ここは多摩川の近くって思っていなくて面白かったね。外から見ると多摩川の近くって感じるけれど、住んでいる人はそうは思わないみたい。*

◇かごや問題も聞いてきた。ざるやとは別ににあったんだって。
屋号で、「あめや」とか「そばや」 っていう屋号があったんだって。
昔のことを聞ける人がどんどんいなくなっているね。

◆*なんだか穏やかで時間がゆっくりで、話していて楽しかったね、いい気持ちだったなあ。無理がない感じがするね。*

◇うん、インドで刺繍をする人たちは、ずっと刺繍をしているんですね。おしゃべりをしながら。テレビがあるわけでなく、パスワードを探すとか(笑)そういうことがないから、本当にずっと刺繍をしている。その時間の感覚が仕事にとても表れている。我慢ではなく、楽しい。追われていない。それができる心の状態。

◇岩立フォークテキスタイルミュージアムで週に一度受付をしているんだけれど、そこにあるものを見ていると今の日本と時間の経ち方が違うな、と思う。日本は便利になったけど、逆にいろんなことができなくなっている。今でも刺繍を作っているところは一人ではなくて、共同体でやっているんですね。それが一人でやるようになり、今は「個人」になる。「作家」になると「作品」になる。岩立さんはそういうこと、ものを作ろう、表現しようという意識が嫌い。

◇タパっていうんですが、アフリカでは木の皮を叩いて繊維にして褌(ふんどし)を作ってたんです。みな、褌に自分のものだ、という模様を入れる。それは「表現」しようとしているわけではない。自分の褌だから。それが美しい。そこには「表現欲」みたいなものはないのよね。それが今は、工芸品、骨董品としてヨーロッパでは高く売れる。今や芸術品のようなものになっている。

◆*クバの布も本当に綺麗。*
◆*それに金銭的価値がついてしまうということはどうなんだろう?いいこと?*

◇それは全然良くないと思う。売るために作ったりしちゃうと。

◇自分が墓に入るときのためのものをずっと作っているわけで。
それを見たヨーロッパの人が美しいね、と言って価格をつけて取引されるようになった。それはちょっと違うよね。多分。

◇全く違う理由で作られていたものが、お金とか、商品価値のようなものに取り込まれていく。品質とか、意味が全然違ってくる。

◉記憶とか風景とか

◆*私は造園屋で、いつも風景が人格を作るって思っているの。良い風景とか悪い風景というんじゃなくてね。その人なりの。だから、お父さんとお母さんが東京の人じゃないから、稲城で暮らすことを選んだんじゃない?ということはとても納得できるな。*

◇私も森山さんくらいの時に稲城の風景が私を作った、なんて考えたこともない。
私は両親がもう亡くなっているので、自分のルーツについては考えますけれど。それって田舎そのものではなくて。お盆やお正月の帰省の途中で見た風景は思い出しますね。

◆*そこに経験や関係性がくっついてきているよね。*

◇小学生の頃、夏休みに新潟の母の実家に預けられていて、何もすることがなくて田んぼしかなくて、暇だなあ、と思っていたけれど、今思うと懐かしいよね。

◆*音とか色とか風の感じとか覚えてないですか?*

◇田んぼなので用水路あって、妹とタニシとかとって遊んでいた。子供だから田んぼにはあんまり行かず、家の近くにおばあちゃんの畑があってきゅうりとか茄子とか、すごい勢いでできてた。そんなことを覚えてます。

◆*私が子供の時に従姉妹と田んぼの脇の水路でオタマジャクシを、バケツが真っ黒になるくらい取って、おばあちゃんの家に持って帰って、家のまえの野菜を洗ってた水路にジャーってこぼした。別にオタマジャクシが欲しかったわけでもないんだよね。どんどん獲れることが面白かった。で、その水路は田んぼにつながっていて、また、田んぼに戻っていった。*

◆*カエルもとってたな。*

◆*そういうのって他の人と代えられる記憶ではない。カエルとったよね、といったことは同世代の人と話せるけれど、取り替えっこできる記憶ではないよね。*

すごくそれが自分のアイデンティティと関わっているな、という気がする。

◆*だから、福島の嵩上げの話の時に、解決の仕方として嵩上げはどうなのよ?と思った。*

◇でも、嵩上げは昔からあるんですよね。万葉集に出てくる「あず」は、自然にできたもの。でも、武蔵野には大丸のような風景があって、子供の頃から見ているから、ああいうものだと思っていた。削られた、という意識もなかった。1930何年かに東京競馬場ができたから、そろそろ100年くらいですね。

◇山をうがっていくと、木が生えようがなく、どんどん侵食されていく。

◆*片桐さんの話を聞いて、榎葉町でも山が削られてたから、あの土はどこに行ったの?って聞いたら、防波堤に使ったんだよと近所の人がいってた。*

◆*防波堤作ったり嵩上げすると風景が変わってしまうね。*
川沿いの田んぼがバッファーになっていた。川が溢れた時に、田んぼの収穫が一年犠牲になると済んだんだよね。家は高台にあった。昔はここにあったら浚われるぞ、というところには家は作らなかった。そういう知恵があったんでしょうね。そういう知恵がなくなっていった。

◇去年の豊田さんの話の中でも、熊本の川も洪水が起きるのを前提に家が作られていた。洪水が起こるたびに魚が採れたって。洪水を前提に生きていたんですよね。それを防ごうとするときに被害が大きくなっちゃう。

◇宮城県の丸森、台風で水害が出た。堤防とか立てているけれど、次、台風が来てこれが倒れたら、もっと被害が大きくなる。

◆*都幾川には信玄が作った霞堤がまだ残っているよ。洪水の時に水を逃すの。*

◇お金儲けが先に来ているから。単に治水の問題でなくなってしまっているんですよね。
昔の治水には知恵が詰まっている。

◉美しさは偽ったりできないし、

◇場所は関係はないけれど、姜信子さんから韓国で99歳のことを白手(ペクス?) 言うという話を聞いたことがあるんです。白い手、すなわち「働かない手」と捉えて、資本主義からなるべく身を離して生きる、という運動が起こっているんですね。自分たちが持っているスペースで料理を作って実費で、分ける、賄いみたいな。

◇あまりにも資本主義が酷い。そこから身を離して生きないと、おかしくなっちゃう。一方で資本主義がひどくなればひどくなるほど、そう考えている人が増えている。私はそちらの側にいたいな、と思っている。

◆*古民家を探していて、120年経って、なかはゴミ屋敷のようになっていても、木の梁や板の襖はとてもしっかりしていて、修繕すれば使えるし、美しいし楽しい。でも、現代の住宅はそうはいかないよね。*

◇美しさは偽ったりできない。
正義感とか、そういうものは偽ったり、うまく立ち回ることはできるが、美しさは正真正銘のものだから偽ったりできない。美しいことに正義だと思っている。美しいものは信じます。

◇「気狂い部落周遊記」を見ても、戦後に負けたから、負けた日本を否定する、そこから再建していこうという意識が働いているとすごく思って。そのさきに多摩センターの開発がある。気狂い部落のようなものはなくなってもいいんだっていう。

◆*今、気狂い部落周遊記より、もっと醜悪になっているんじゃない?*

◇気狂い部落っていうタイトルをつける時に、村の人から反対があったって。それは不名誉だから、というよりは、自分たちの住んでいる土地に対する愛着があったからなんじゃないかな。愛着っていうのが開発によってみんな無くなった。愛がないっていうか。それも多摩の活動に関わってみて、多摩って土地に対する愛着っていうのが希薄だなって。なけなしの愛着があったのに、ニュータウン開発で無くなってしまった。オオカミの護符の小倉さんが、山が削られることに対して痛いって思ったって言ってた。土地に対して身体感覚を持つって、普通だったんじゃないかな。

◇古い因習的なものから解放されたかもしれないけれど、失ったものもあるということもみていかないとね。ここより先に行ったら、そんなものは無くなってしまうかもしれないじゃないですか。昔のことを知らないとこれからのことが考えられない。昔のことを知ることは大切なことですよね。